

共同選果施設を有効活用した「えだまめ」の生産拡大

目的

- 徳島市は西日本有数のえだまめ産地。
- ベルト式色彩選別機をはじめ共同選果施設を整備。（平成30年3月）
- 共同選果施設の有効活用による栽培面積の拡大と輪作体系の確立により、もうかる農業を実現。

課題

【生産・経営面】

- 家族経営が中心で、経営は依然として小規模。 R5 49a/戸 (R1比 117%)
- 高齢化により産地としての供給力が低下。
R5出荷量 352t (R1比 81%)、R5出荷者数 186人 (R1比 83%)

【技術面】

- 異常気象等の影響により収穫量が不安定 R5単収 344kg/10a (R1比 73%)
- 早期出荷が増えるに連れ、ダイズシストセンチュウの被害が増加

目指すべき姿

○生産性と収益性が向上し生産力が強化、西日本有数のえだまめ産地として発展

- 農業法人や経営面積拡大を志向する農業者を中心とした産地が形成される。
- 安定的な供給量や品質の確保により、市場等からの評価が一層高まっている。
- えだまめを中心とした輪作体系により、もうかる経営モデルが育成される。

<成果目標>

- 早期出荷比率（5月～6月出荷） 19.8% (R5) → 30.0% (R8)
- 共同選果施設利用率 55% (R5) → 70% (R8)



課題解決に向けて

○支援対象の明確化

- 農業法人、規模拡大を志向する農業者、若手農業者

○経営体別の最適な栽培体系の提案

- 経営規模ごとの最適な栽培・機械化体系シミュレーションの実施
- 共同選果施設利用による作業負担軽減及び所得向上効果の再検証
- もうかる農業を実現する経営モデルの作成（規模拡大、輪作体系）

○出荷量や単収向上による生産力強化

- えだまめ収穫機導入による作付面積の拡大（農業法人への導入推進）
- 前進出荷による共同選果施設の利用促進（施設利用の平準化）
- 早期出荷と単収・品質向上を図るハウス・トンネル栽培の推進
- 緑肥作物利用によるダイズシストセンチュウの防除技術の普及

【プロジェクト実施体制】

農業法人、規模拡大志向農業者等	生産・出荷拡大、経営モデル実践、収穫機などスマート技術の導入等
J A 徳島市 J A 徳島県 J A 全農とくしま	共同選果施設利用促進、播種作業等の受託面積の拡大、販売計画・方針の決定等
農薬・資材メーカー等	作型に適した優良品種や単収向上に向けた被覆資材等に関する情報提供
農技センター	経営体別経営分析、経営モデルの提案等
農業支援センター	技術指導、プロジェクト調整等